

第302号 2012年 3月16日  
弘前大学総務部総務課

学術講演会・研究発表会・公開講座

「裁判員の経験に触れる 裁判員経験者座談会」開催のお知らせ

弘前大学では、下記の日時において、「裁判員の経験に触れる 裁判員経験者座談会」を後援いたします。この企画は、裁判員制度の実施から3年を迎えるにあたり、模擬裁判員裁判で裁判員を疑似体験し、裁判員経験者座談会でその声に触れ、経験者同士の交流をはかることで、青森県内で、裁判員の経験を広く伝え、分かちあうことを目的としています。

模擬裁判員裁判と裁判員経験者座談会は、一般の方へ公開しております。裁判員経験者の参加する企画は、弘前市（弘前大学）では類似の実施例がありますが、青森市では初めてで貴重な機会になると思われます。なお、裁判員経験者交流会のみ、経験者が参加しやすいよう、非公開で開催いたしますので、ご了承ください。

1. 日 時：2012年 3月24日（土） 13:30～17:00  
（模擬裁判員裁判、裁判員経験者座談会）

※13:00～15:00（非公開の裁判員経験者交流会）

2. 会 場：ねぶたの家 ワ・ラッセ2階イベントホール  
（模擬裁判員裁判、裁判員経験者座談会）  
（青森市安方1-1-1）

3. テーマ：裁判員の経験に触れる 裁判員経験者座談会

4. 後 援：弘前大学

※青森市民ホール会議室（非公開の裁判員経験者交流会）  
（青森市柳川1-2-14）

入場無料で予約の必要はありません。

ワ・ラッセに駐車場はありますが、駐車は有料となります。



**問い合わせ先：** 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
弘前大学人文学部 公共政策講座 飯 考行（いい・たかゆき）  
電 話：0172-39-3958  
E-Mail：[iit@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:iit@cc.hirosaki-u.ac.jp)  
U R L：<http://www.saibanhou.com/sympo2011c.html>

弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療検討委員会  
平成23年度 第2回緊急被ばく医療研修報告会開催のお知らせ

弘前大学大学院保健学研究科では、被ばく医療に係わる医療スタッフを育成するために国内外の緊急被ばく医療研修会に参加して得られた情報を公開し、内容の共有化を図る目的で「緊急被ばく医療研修報告会」を開催しております。

今回は、保健学研究科から外部への新たな情報発信の機会となったアメリカがん看護学会での福島第一原子力発電所事故ならびに原子力災害に対する弘前大学の取り組みの紹介と、カリフォルニア大学サンフランシスコ校での大学院生および教員を対象とした原子力災害におけるメンタルヘルスケアについての講演を国外研修として取り上げました。国内研修としては、原子力災害におけるモニタリングセンター員としての実践的演習と、青森県の緊急被ばく医療研修に関する報告を行います。本研修報告会での情報共有が、ご参加のみなさまの資質向上に貢献することを期待しております。

参加制限はとくにございませんので、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

1. 日 時：2012年 4月12日（木） 17:40～
2. 会 場：弘前大学大学院保健学研究科6階 第24講義室
3. 対 象：弘前大学教職員、弘前大学学部学生・大学院生、  
弘前大学医学部附属病院職員、青森県内医療従事者、  
その他

※参加費無料。事前のお申し込みは不要です。

4. プログラム：

- ・開会の挨拶 石川 孝（司会）17:40

・演題発表

《座長：細川 洋一郎 教授（放射線生命科学分野）》 17:45～18:15

- (1) Oncology Nursing Society 12th Annual Institutes of Learning 講演報告  
野戸 結花 教授（障害保健学分野）

- (2) UCSFにおいて行った弘前大学からの情報発信  
北宮 千秋 准教授（健康増進科学分野）

《座長：西沢 義子 教授（健康増進科学分野）》 18:15～18:45

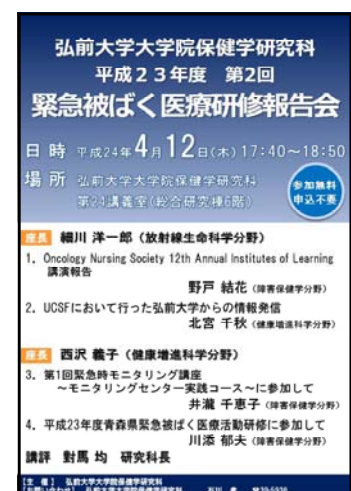
- (3) 第1回緊急時モニタリング講座～モニタリングセンター実践コース～に参加して  
井瀧 千恵子 准教授（障害保健学分野）

- (4) 平成23年度青森県緊急被ばく医療活動研修に参加して  
川添 郁夫 講師（障害保健学分野）

- ・講 評 対馬 均 保健学研究科長 18:45

- ・閉会の挨拶 石川 孝（司会）18:50

5. 主 催：弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療検討委員会



**問い合わせ先：** 弘前大学大学院保健学研究科 石川 孝  
電 話：0172-39-5936  
E-mail：[ti3054@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:ti3054@cc.hirosaki-u.ac.jp)

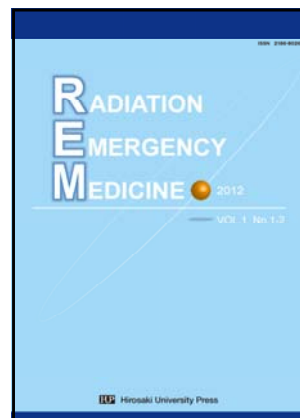
## 学 内 掲 示 板

### 弘前大学出版会から新刊のご案内

Radiation Emergency Medicine編集委員会編「Radiation Emergency Medicine Vol.1 No.1-2」(A4判・128頁・定価1,100円：税込)を出版しました。

弘前大学では、平成20年より大学院保健学研究科を中心として緊急被ばく医療のための人材育成と体制の整備に取り組んでおり、また、平成22年から始まった「緊急被ばく医療プロフェッショナル育成計画」においては、様々な領域で働く、被ばく医療に携わる可能性のある人々の育成を行ってきた。その活動の一環として、緊急被ばく医療に関連する研究の成果、情報の共有が重要であると実感し、編集委員会を設置してこのたび被ばく医療に関する学術誌を発刊した。創刊号では、放射線看護、被ばく医療教育、放射線計測、線量評価等、教育や看護の現場の状況、放射線管理、これまでの原子力施設における事故の影響等の興味深い論文が掲載されている。世界に発信し、グローバルなつながりの中で研究を深めていくために、英文での発刊とした。

今後、疫学調査、生物影響、線量評価、被ばく医療教育、放射化学分析、放射線看護、放射線計測、放射線防護、臨床研究など広い分野にわたる論文を掲載していく予定である。



弘前大学人文学部ボランティアセンター 編「チーム・オール弘前の一年―岩手県野田村の復興支援・交流活動の記録―」(四六判、340頁、定価2,100円：税込)を出版しました。

2011年3月11日の東日本大震災は、各地に甚大な被害を及ぼした。それを受け、弘前市では、弘前市民・弘前市・弘前大学が連携した「チーム・オール弘前」を結成し、岩手県九戸郡野田村を中心に、支援・交流活動を開始した。本書は、走りながら考え、泣き笑い、活動してきた1年間のぎゅっと詰まった記録である。第一部は、バスで片道3時間半、弘前から野田村まで通い続けた約33回にわたる活動を、詳細に記している。刻々と状況が変化し、村も活動も人との関わり方も、どんどんうつり変わっていく。第二部は「みんなの声」として、弘前市民のみなさんや学生たちの経験や思いが、彩り豊かに記されている。第三部は、支援・交流活動のこれまでと今後のあり方についての座談会を収録した。

ある学生は、この活動を通して「自然の力を乗り越えていく人の力」「年齢性別職業が違って、一つのことに取り組んでいける人のひたむきさ」を目の当たりにしたという。私たちの生の記録が、今後の被災地支援、ボランティア活動、さまざまな主体の協働のあり方、そして人と人が出会うことの尊さを考える一助になれば幸いである。



大高 明史 著「ブナの森の湖沼群」(A5判、94頁、定価650円：税込)を弘大ブックレットNo.8として出版しました。

十二湖は、白神山地のブナ林に散らばる31の湖沼の総称である。大きさや水の色、冬の結氷のようすなどが異なる湖はどれも個性的で、森の中の湖沼めぐりは四季それぞれに楽しい。本書は、20年以上にわたって学生たちと続けてきた、十二湖での野外調査の記録である。主役は、ミジンコやワムシなどのプランクトンや、水生昆虫、両生類、魚類など、水中で暮らす生物たちである。ミジンコやモリアオガエルが、小さな湖沼でしか見られないのはなぜか。ヨコエビが晩秋に堰を切ったように一斉に繁殖するのはなぜか。上流の湖沼に住むワカサギほど体が大きいのはなぜか。たくさんの問題を発見し、みずから解決に迫った。そこから見えてきたことは、森と水の深いつながりだった。十二湖の全湖沼について、深さや別名などの情報を掲載したほか、湖沼生物の変遷や水質の特徴、湖沼名の由来などにも触れ、十二湖のガイドブックとしての利用価値も高い。



竹内 健悟 著「里の自然学」(A5判、92頁、定価800円：税込)を弘大ブックレットNo.9として出版しました。

多くの人が注目する美しい自然や貴重な生きものと違って、身近な自然や生きものについては意外にも資料や記録が少ないものである。本書は、津軽地方の里の自然、つまり人の手が入る身近な自然について解説したもので、鳥類の調査を主とした約30年にわたるフィールドワークに基づいている。

内容としては、生物多様性の解説に始まり、鳥類やその生息場所となっている水辺環境の実態や移り変わり、白神山地の保護から世界遺産登録までの概要と課題、後半では岩木川の自然、とりわけヨシ原の現状について最新の研究成果を伝えており、生物学的な自然の解説だけではなく、環境社会学の見地から人と自然の関わりについて考察していることも特徴である。

自然愛好家には資料として、初心者には郷土の自然を知るガイド・入門書として、教育関係者には地域教材として活用できる内容になっている。



ご興味をお持ちの方は大学生協または市内の書店でお買い求め下さい。

### 弘前大学出版会から出版のための企画募集

弘前大学出版会から著書の出版を希望される方は弘前大学出版会にご相談ください。出版企画提案書の書式を添付ファイルでお送りいたしますので、ご記入の上、ご返送ください。詳細についてはご連絡いただいた折に、ご説明いたします。

**問い合わせ先：** 弘前大学出版会（附属図書館内）  
電 話：0172-39-3168  
FAX：0172-39-3171  
E-mail：[hupress@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:hupress@cc.hirosaki-u.ac.jp)

## 国立大学協会情報誌「JANU」「JANU別冊」について

本学が会員となっている「一般社団法人 国立大学協会」では、各国立大学の現状や優れた取り組みなどを分かりやすくまとめた国立大学協会情報誌「JANU」「JANU別冊」を作成しています。

下記URLより最新号を含め、今まで発行されたバックナンバーをご覧ください。

[http://www.janu.jp/active/7janu\\_quarterty\\_report.html](http://www.janu.jp/active/7janu_quarterty_report.html)

最新号の第23号において、本学記事が掲載されていますのでご覧ください。

編集担当から) 講演会、研究発表会、部局行事等の掲載原稿を発行予定日(毎月1日と16日の2回)の7日程度前までに、下記のところまでご提供ください。お待ちしております。

◎担当: 総務部総務課広報・支援グループ

E-mail: [jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp)、Fax: 37-6594、内線: 3012